

図書館東海目録サービスの活動について

小林晴子

図書館東海目録サービス

図書館東海目録サービスは、医学・医療その他関連領域の図書館の相互協力とネットワークの形成を通して、医学と医療の進歩発展に貢献することを目的とする団体である。2025年3月に設立され、主たる事務所を名古屋市に置く。

本団体の前身である「東海目録」は、東海地区医学図書館協議会において、目録データの提供・利用を目的とした会員組織を対象に、東海目録作成ワーキンググループを中心として運営されてきた。しかし、2024年の同協議会解散に伴い、「東海目録」も一旦解散することとなった。その後、資産および事業を継承し、主に同ワーキンググループのメンバーにより設立された後継団体が図書館東海目録サービスである。

本団体は、従来のサービスを継承しつつ、医学文献の相互利用の促進、研究会・講習会の開催などを事業として展開している。また、図書館関係団体等との連携を通じて、広域的なネットワークの形成と維持を図っている。

2025年度は、活動方針の策定および運営体制の整備を行い、団体会員29、個人会員2の計31会員で活動を開始した。広報活動として公式ホームページの開設や会報を発行し、活動内容や研究会情報を発信するとともに、メーリングリストを整備し、会員間の情報共有基盤を構築した。研究活動としては、日本看護図書館協会との共催による研究会を実施し、これにより館種を超えた連携と知見交換の促進が図られた。そのほか、説明会・勉強会も開催している。また、図書館用品の一部割引など、企業との連携も開始した。情報基盤の中核として、電子ジャーナル管理システムTOMcat-EJの運営・保守を継続しており、データベース契約に関する協力など、発展的なサービスへの準備を進めている。さらに、電子媒体の共同利用に向けたコンソーシアム形成の検討を進めている。

以上の取り組みにより、地域における図書館連携の基盤形成が進みつつある。今後は、共同リポジトリの構築やコンソーシアムの具体化等を通じて会員の拡大を図り、持続可能な広域連携モデルの確立を目指す。